

平成30年2月

子ども自身が目標の達成を 実感できる授業づくり

～支援を必要とする子どもたちが輝ける授業をめざして～

大阪府教育センター
支援教育推進室

目次

○ はじめに	…	1
○ 授業づくりのプロセス	…	2
● Plan (ステップ1～4)	…	3
● Do (ステップ5)	…	17
● Check (ステップ6)	…	18
● Action (ステップ7)	…	19
○ 評価を活用した指導改善のPDCAサイクル	…	20
○ 引用・参考文献	…	21

はじめに

子ども自身が目標の達成を実感できる授業とは？



授業の中に、子どもたちが「面白い！」「楽しい！」と感じる場面をたくさん作ればいいのか？

毎時間、子どもたちの好きなことを学習活動に取り入れたり、興味を持てるような教材を準備したりすればいいのか？

子どもたちが自分の課題と向き合い、解決を図ることができるような個別指導の時間を長く設定すればいいのか？



授業づくりに取り組む・・・でも、その前に

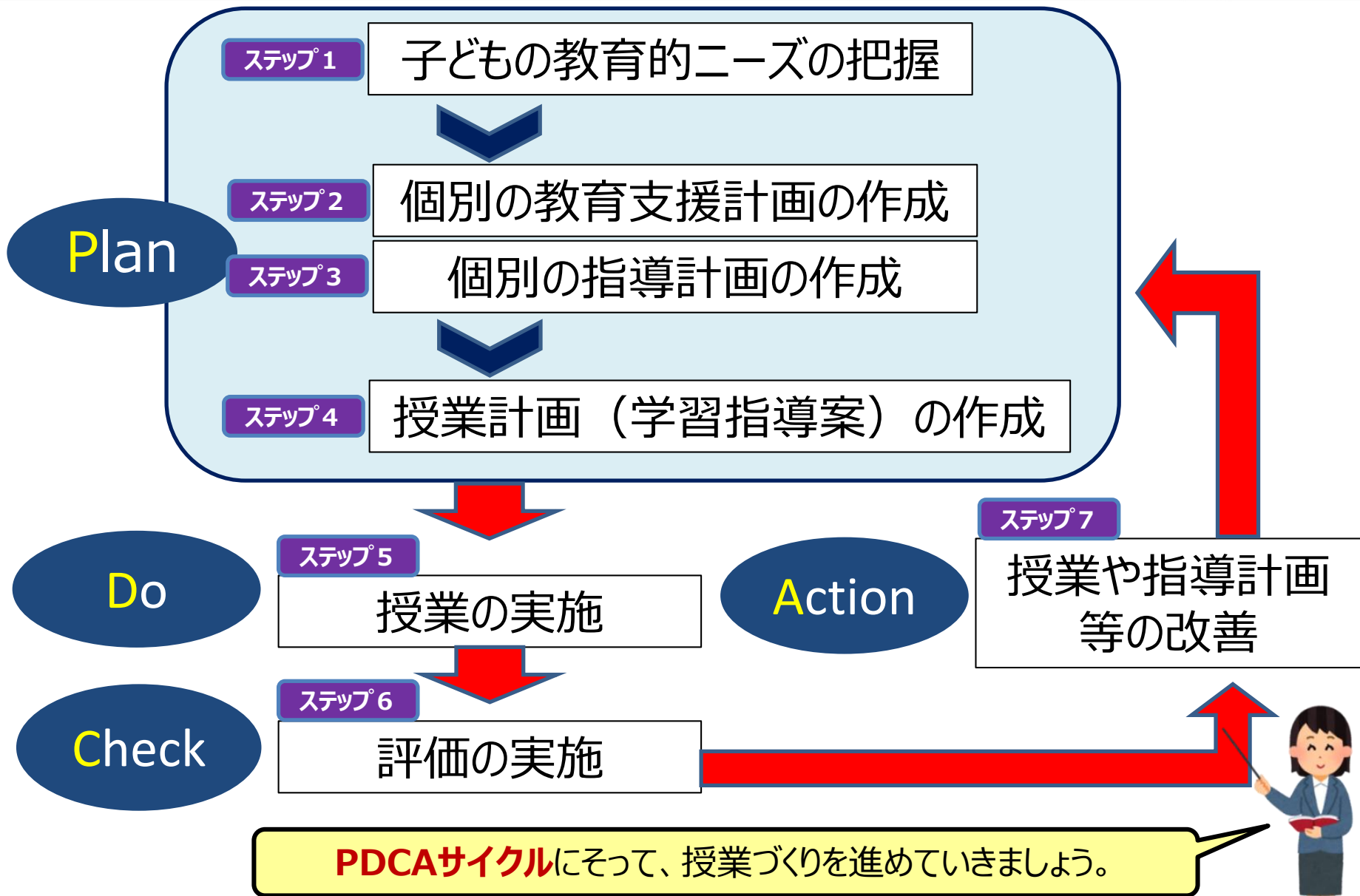
先生方が考えるように、授業では、子どもたちの興味・関心を高めるような指導・支援の工夫は大切です。また、子どもたちの実態が多様化する中で、その多様性に応じようと活動展開を工夫することも必要です。

しかし、面白さを追求した活動の設定や興味・関心に基づく教材教具の開発に重点を置きすぎると、**「活動すること、教材を活用すること＝学習の目標」**となってしまう、**本来の学習の目標からは、かけ離れてしまうことがあります。**

子ども自身が「今日の授業で〇〇ができた、わかった！」という達成感を得られるような授業をつかっていくために、次のようなプロセスで考えていきましょう。



授業づくりのプロセス



Plan ステップ1 子どもの教育的ニーズの把握

◆ ここでは、まず子ども一人ひとりの実態把握を行い、その情報を整理します。

情報収集

- 本人・保護者の願い
- 障がいの状態
- 発達段階
- 既習・未学習・
誤学習等の状況
- 生活環境 等

各種検査の実施

- 心理・発達検査等の
結果

行動観察

- 自由な活動場面での
様子
- 設定場面での様子



- 子どものよさ（得意なところ、強みのところ）、認知特性・行動特性
- 子どもの課題（改善したいところ、伸ばしたいところ、不得意なところ）をとらえる

子どもの教育的ニーズ（子どもが教育に求めるもの、教育によりつきたい力）
を明らかにする

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成につなげる

Plan ステップ2 個別の教育支援計画の作成

➔記入例

A-1

B-1

参照

個別の教育支援計画（例）

〇〇〇立〇〇〇〇〇〇学校園

幼児・児童・生徒名		生年月日	平成 年 月 日
保護者名		記載者	
住所・連絡先		記載日	平成 年 月 日

障がい等に関する情報

本人及び保護者の希望（ニーズ）

将来の生活についての希望（3年、6年後、卒業後の生活について等）

生かしたいよさ（特性）、興味・関心について 等

関係機関との連携協力・支援ネットワーク

教育機関	福祉機関	医療機関	地域活動・家庭	その他（保健・労働等）
機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：	機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：	機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：	機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：	機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：

長期的な視点（3年程度）からみた教育的ニーズと支援内容

支援の目標（優先課題）

支援の内容（手だて・配慮）

評価（成果、今後の課題、引継事項等）
評価の実施時期：

私は、以上の内容を了解し、確認しました。

平成 年 月 日 保護者名（ ）

乳幼児期から学校卒業後までの一貫した長期的な計画を、学校が中心となって作成します。作成に当たっては、保護者の参画のもと、関係機関との連携が必要になります。



「診断名」「障がい名」ではなく、生活上または学習上の状況、困難さ等を記入

- ◆ 3年程度からみた支援の目標を設定
- ◆ キャリア教育の視点（将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置き、子どもたちの成長や発達を促進する見方を持つ）に立ち、めざす子どもの姿をイメージして、**優先すべき支援課題**を設定

- ◆ **合理的配慮の内容やその理由等**について記入
- ◆ 支援の内容については、固定して考えず、定期的に見直しを図ることが大切

「個別の指導計画」(例)

幼児・児童・生徒名	記載者	年 月 日
	記載日	

1 実態把握

障がい等の状況	
日常生活面	
学習面	
コミュニケーション	
社会性	
行動面	
生かしたいよさ	

2 指導計画

教科・領域名 []

長期目標	
------	--

[] 学期

短期目標	
------	--

内容・方法	【学習内容】	【指導方法】

評価規準	
------	--

評価	
----	--

(記載: 年 月 日)

「個別の教育支援計画」を踏まえ、具体的な指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ指導計画を作成します。



- ◆ 子どもの実態に合わせ、ほぼ1年間で達成可能な目標を設定
- ◆ **優先課題をより具体的に示した内容を記入**

- ◆ 長期目標を達成するために、いくつかの期間に分けて短期目標を設定（1学期間等、**短いスパンで達成可能な目標**）
- ◆ 客観的に評価できるよう具体的に記入（**どういう状況で、どのような行動を、どれくらいするのか**）

合理的配慮の内容を生かした指導・支援の工夫を考え、記入

Plan ステップ4 授業計画（学習指導案）の作成

「教科・領域」（授業名） 学習指導案

1. 日時
2. 場所
3. 学部・学年・組
4. 単元（題材）名
5. 単元（題材）目標
6. 児童生徒観
7. 教材観
8. 指導観
9. 単元（題材）の評価規準

関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解

授業の設計図となるのが、学習指導案です。記載する項目の数や内容は、校種・教科・領域等によって増減することがあります。ここでは、基本的な項目を例示しています。



10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全○時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解

11. 本時の展開
 - (1) 本時の目標
 - (2) 本時の評価規準
 - (3) 本時で扱う教材・教具
 - (4) 児童生徒の実態と本時の目標

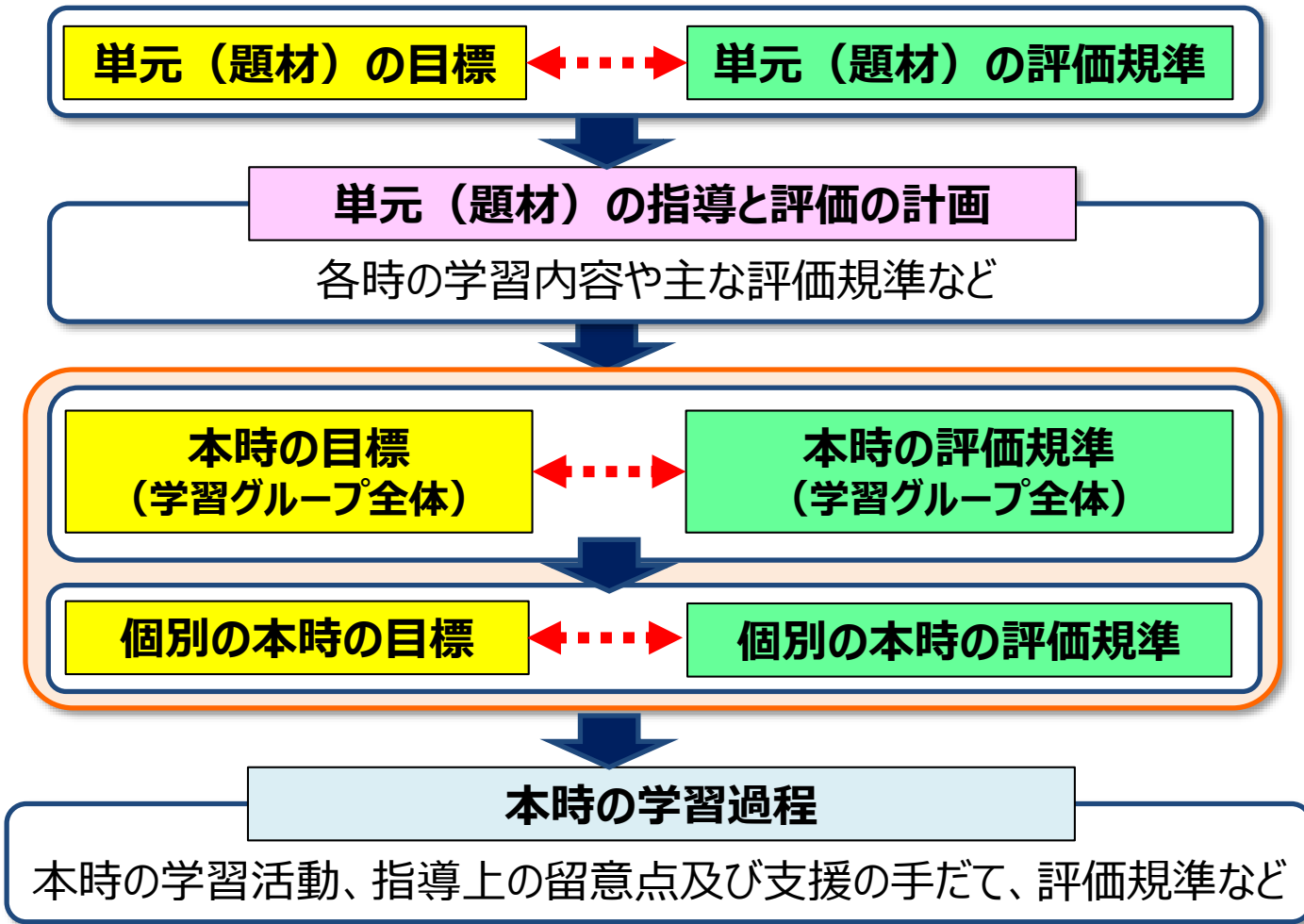
	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準

- (5) 本時の学習過程

時間	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準 (評価方法)

- (6) 教室配置等

授業計画の作成の流れ – 指導目標と評価規準を中心に –



授業計画の作成の大まかな流れを➡で、それぞれの指導目標と評価規準に関連性があることを<=>で示しています。



それぞれの目標に対して評価規準を設定することが大切です。評価規準の設定によって、**子どもの学習状況を判断する際のめやす**が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながります。

授業計画作成の実際

- ◆ ここでは、指導目標と評価規準の設定に焦点を当てて、授業計画作成の流れを示しています。

(1) 単元（題材）の目標

学習指導要領等を参考に、単元（題材）を通して子どもが付けるべき力を設定

(2) 単元（題材）の評価規準

目標に対して「おおむね満足できる」学習状況にあると考える、具体的な子どもの姿を観点ごとに設定

(3) 単元（題材）の指導と評価の計画

設定した評価規準を、単元（題材）の指導計画に位置付ける

(4) 本時の目標と評価規準

グループ全体及び子ども一人ひとりに対して、本時の目標と評価規準を設定

(5) 本時の学習過程

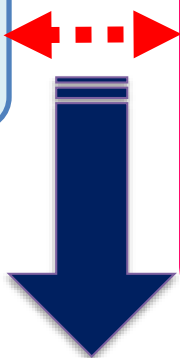
本時の目標を達成するための具体的な学習活動や子どもの主体的な学習を促す指導・支援の工夫等を設定

(1) 単元（題材）の目標の設定

目標の設定に当たっては、学習指導要領等の目標や内容を参考にします。加えて、学習グループの子どもたち一人ひとりの「個別の指導計画」の指導目標や内容を踏まえながら、本単元で付けたい力をより具体化していきます。



各教科・領域における
個別の指導計画



幼稚園教育要領

小学校・中学校・高等学校学習指導要領

特別支援学校教育要領

特別支援学校学習指導要領

特別支援学校学習指導要領解説 総則等編

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編



「個別の指導計画」や学習指導要領等の目標や内容を踏まえて、

単元(題材)を通して付けるべき力を設定する

→記入例

A-3-(1)

B-3-(1)

参照

(2) 単元（題材）の評価規準の設定

- 目標に対して、子どもがどのような学習状況であれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを明確にし、具体的な子どもの姿として記述する

→記入例

A-3-(2)

B-3-(2)

参照

- 評価規準は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点*から設定する

* 現行の学習指導要領

(新学習指導要領では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理される)



設定する評価規準は、常に4観点（国語は5観点）というわけではありません。単元（題材）の学習内容によっては、評価規準として取りあげない観点もあります。

評価規準の表記について

関心・意欲・態度

➡ ～しようとしている 等

語尾に「(〇〇している) **子どもの姿**」をつけて考えてみましょう

思考・判断・表現

➡ ～について考えている、～について表現している 等

技能

➡ ～することができる、～を身に付けている 等

知識・理解

➡ ～に気づき～している、～した上で～することができる 等



「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
(国立教育政策研究所)にある「評価規準に盛り込むべき事項」、
「評価規準の設定例」等を参考にします。

(3) 単元（題材）の指導と評価の計画

<各時の学習内容>

- 学習内容は、**「(1) 単元（題材）の目標」で設定した内容にそって**具体的に設定する

→記入例

A-3-(3)

B-3-(3)

参照

<各時の評価規準>

- 評価規準は、**1 単位時間の授業で1～2つにしぼって設定する**のが妥当

→記入例

A-3-(3)

B-3-(3)

参照



「単元（題材）の評価規準」で設定した評価規準を、指導計画全体を通して、どこに位置づけるかを明確にしましょう。

(4) 本時の目標と評価規準

<学習グループ全体に対して>

- 本時の目標は、「(3)単元の指導と評価の計画」の学習内容を踏まえて、具体的に設定する

→記入例

A-3-(4)ア

B-3-(4)ア

参照

- 本時の評価規準は、**「(3)単元の指導と評価の計画」**
で設定した観点に沿って、本時の学習内容を踏まえて
具体的に記述する

→記入例

A-3-(4)ア

B-3-(4)ア

参照



本時の目標については、学習内容を踏まえて「～することができる」など具体的に記述します。また、本時の評価規準を設定する際は、あわせて具体的な評価方法（行動観察やワークシートなど）についても明らかにしておきましょう。

(4) 本時の目標と評価規準

<個別に対して>

- 本時の目標は、学習グループ全体の本時の目標と個々の自立活動の指導との関連を意識しながら設定する
→記入例 A-3-(4)イ B-3-(4)イ 参照
- 評価の観点は、学習グループ全体に対して設定した評価の観点に基づき、評価規準は、個々の実態に即して具体的に設定する
→記入例 A-3-(4)イ B-3-(4)イ 参照



自立活動の指導は、自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導とも密接な関連を図って行われるものです。「個別の指導計画」をもとに自立活動の指導と関連づけながら、個別の目標を設定することが大切です。

(5) 本時の学習過程

<学習内容・学習活動>

- 本時の目標を達成するために子どもが行う、学習内容や学習活動について記述する

→記入例

A-3-(5)

B-3-(5)

参照

<指導上の留意点及び支援の手だて等>

- 教員が行う、**子どもの主体的な学習を促す工夫**や**個に応じた指導・支援の工夫**について記述する

→記入例

A-3-(5)

B-3-(5)

参照



指導上の留意点や支援の手だてについては、「(子どもが) ~できるように促す」「(子どもが) ~できるように~する」など、具体的に内容を記述しましょう。

(5) 本時の学習過程

<評価規準及び評価方法>

- 評価規準は、グループ全体に設定した「(4) 本時の評価規準」と一致させる

→記入例 A-3-(5) B-3-(5) 参照

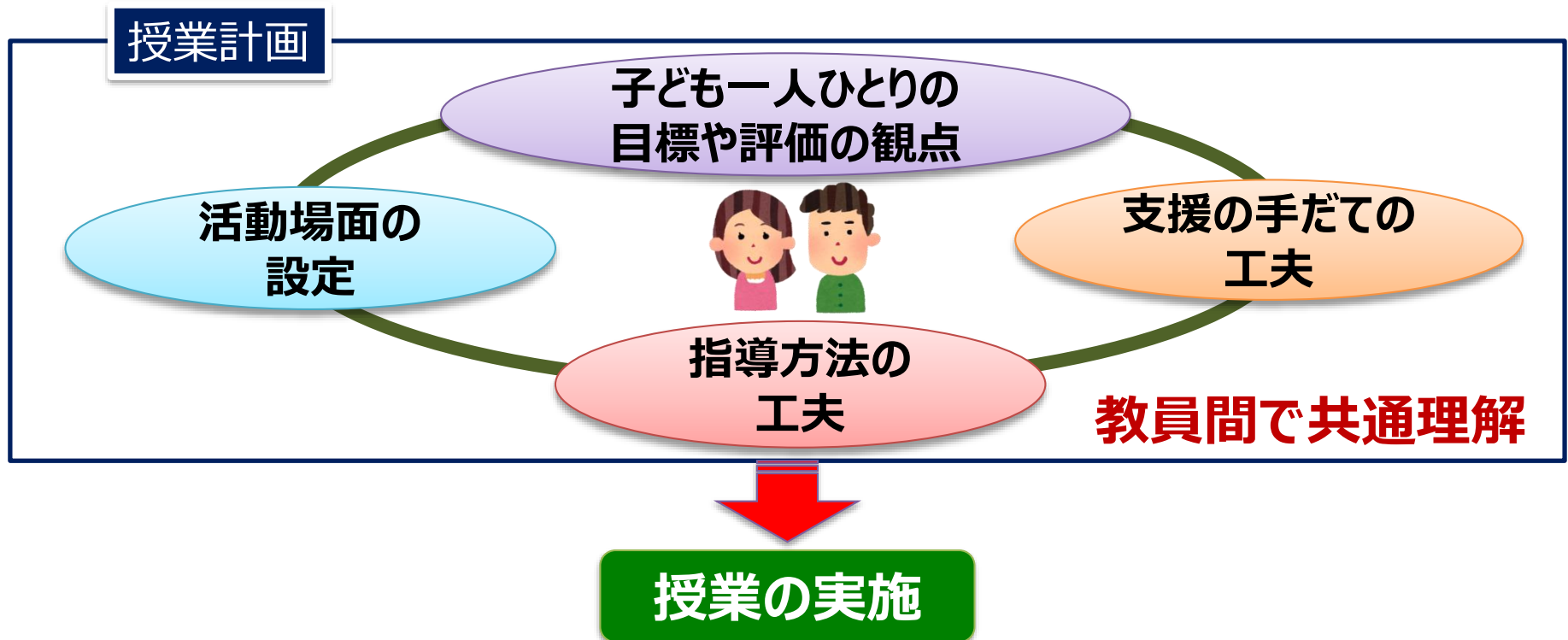
- 評価方法は、行動観察やワークシート、作品等による評価を適切に組み合わせる

→記入例 A-3-(5) B-3-(5) 参照



本時の学習過程では、どの活動場面で、どのような方法で子どもの学習状況进行评估するのかを明確に示しましょう。

授業計画を踏まえて、**目標に準拠した授業**を実施



評価規準で示した内容について、子どもの学習状況が評価できるように、授業計画に沿って本時の学習を展開しましょう。
あらかじめ、授業計画をもとに、担当教員の間で共通理解を図っておくことが、適切な評価につながります。



Check ステップ6 評価の実施

子ども

学習状況の評価

➡記入例 A-4 B-4 参照

目標に対する子どもの学習状況を、設定した観点ごとに分析的に評価する
(目標に準拠した評価の実施)



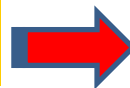
学習状況の評価を
集積して…

子ども一人ひとりの
単元や学期、年間での総括的な評価につなげる



教員

授業の評価



指導の評価

➡記入例 A-4 B-4 参照

子どもの学習状況の評価を踏まえて…

学習活動の設定、教員による指導・支援の在り方、目標の妥当性
について評価する (授業の評価の実施)



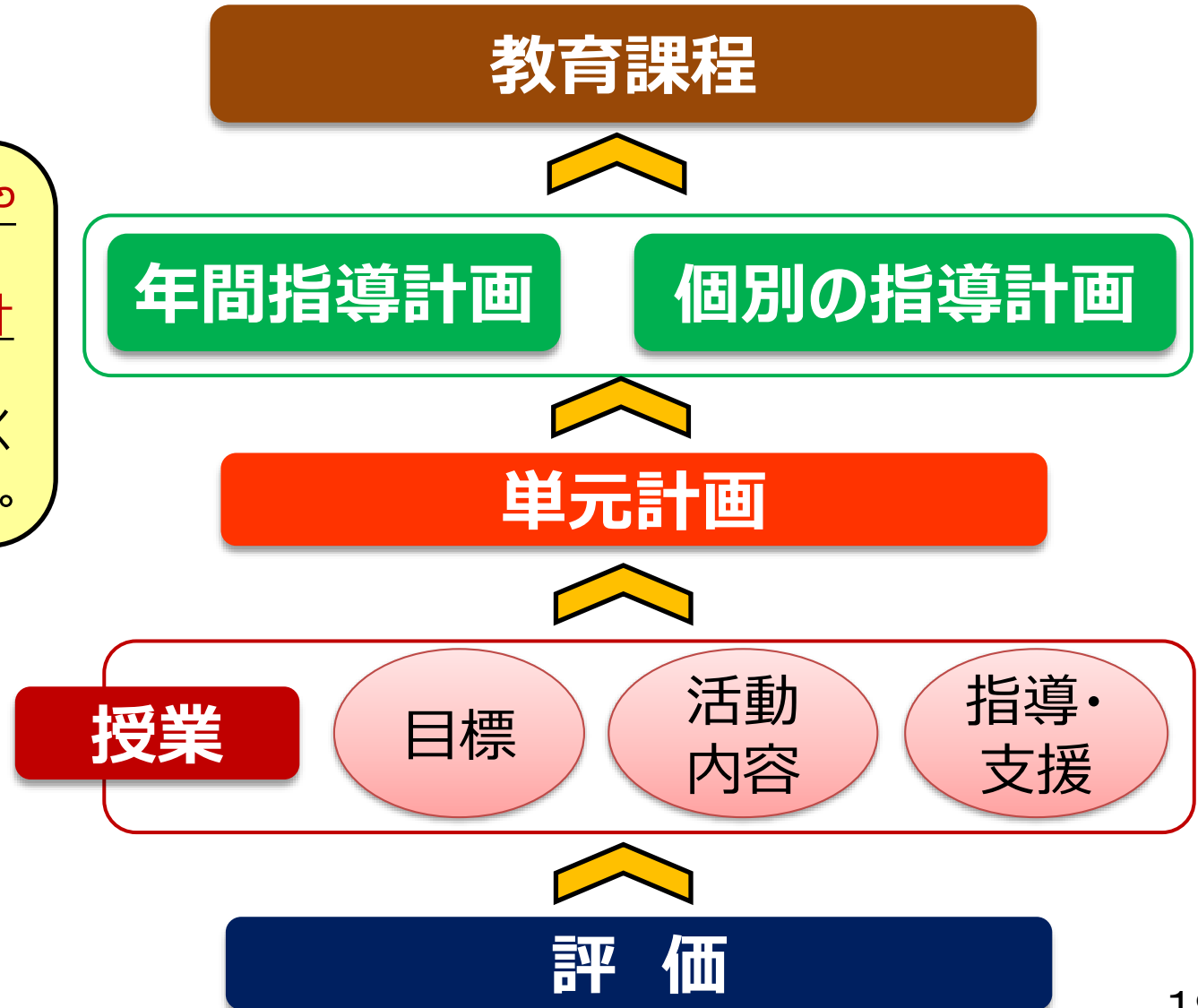
授業の評価を
集積して…

単元計画や個別の指導計画等の評価につなげる (指導の評価の実施)



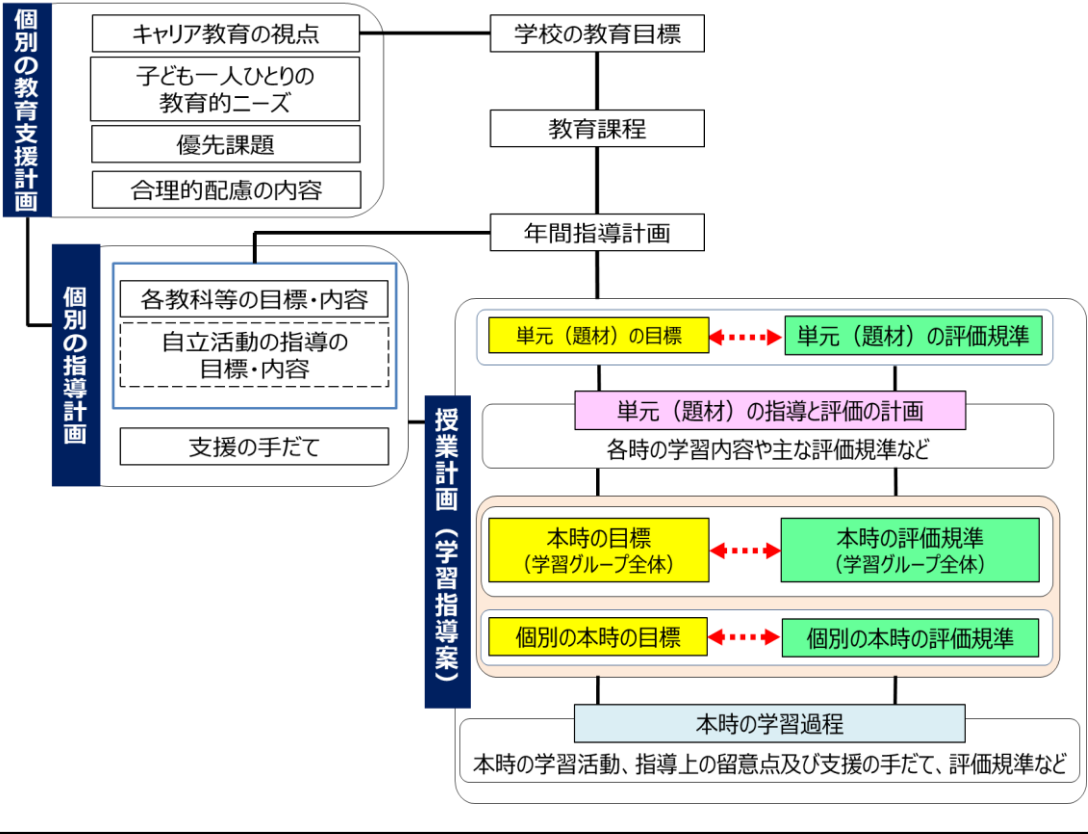
評価を生かした、授業や指導計画等の改善を実施

評価は、次時の授業や
単元計画の見直しに
生かすとともに、指導計
画や教育課程全体の
改善にも結びつけていく
ことが求められています。



評価を活用した指導改善のPDCAサイクル

Plan



Action

授業や指導計画等の改善

Check

子ども **学習状況の評価**

目標に対する子どもの学習状況を、設定した観点ごとに分析的に評価する (目標に準拠した評価の実施)

- ➡ 評価を集積し、子ども一人ひとりの単元や学期、年間での総括的な評価につなげる

教員 **授業の評価** ➡ **指導の評価**

子どもの学習状況の評価を踏まえて…

学習活動の設定、教員による指導・支援の在り方、目標の妥当性について評価する (授業の評価の実施)

- ➡ 評価を集積し、単元計画や個別の指導計画等の評価につなげる (指導の評価の実施)

Do

授業の実施

目標に準拠した授業の実施

引用・参考文献

- 小・中・高等・支援学校 初任者研修の手引
大阪府教育委員会
- リーフレット
「ともに学び ともに育つ 一貫した支援のために 支援をつなぐ 『個別の教育支援計画』の
作成・活用」
平成28年3月 大阪府教育委員会
- 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領
平成21年3月 文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）
平成21年6月 文部科学省
- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
(<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)
国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 「『育成を目指す資質・能力』をはぐくむための知的障害教育における学習評価の実践ガイド」
平成28年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
ジアース教育新社